電気用品調査委員会
平成 30 年 3 月 19 日
資料 No.　4-10

電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	家庭用医療機器 JIS 原案作成委員会
事務局	一般社団法人　日本ホームヘルス機器協会

＜規格情報＞

規格番号（発行年）	JIS C 9335-2-209（2018）
対応国際規格番号（版）	対象となる国際規格は無い
規格タイトル	家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－ 第 2-209 部：家庭用電気治療器の個別要求事項
適用範囲に含まれる主な電気用品名	家庭用超短波治療器，家庭用低周波治療器，家庭用電位治療器
廃止する基準及び有効期間	J60335-2-J9(H23)、3 年間

＜審議中に問題となったこと＞

今回のこの規格の改正審議で問題となった主な事項は，次のとおりである。

a) 個人経営の診療所等での電気治療器の使用について（箇条 1）

個人経営の診療所や病院等も適用も範囲に入れたほうが良いのではないかとの意見があり審議したが，対象となる機器はあくまでも家庭用であるため，診療所や病院用は除外したままとすることにした。

b) 導子部の扱い方について（8.1.4）

8.1.4 では，“家庭用電気治療器の導子部は，充電部とみなさない。”旨の規定を削除したほうがよいとの指摘が有ったが，家庭用電気治療器の導子部は，意図して治療に供する部分であり，治療のためのエネルギーを放出させることを目的とした導子の部分であるため，この規格では，通則の充電部から除外し，導子部には各治療器特有の特性に応じた規定を設けていることによって，このままとした。

c) 可とうコードの中間に配置するスイッチ又は自動調節器に関して（24.2）

通則の 24.2 では，“可とうコードの中間に接続したスイッチ又は自動調節器”を取り付けてはならないと規定されている。この規定に関して，旧規格では，24.2 の規定どおりの内容で運用していたが，機器の構成によっては，24.2 の規定に適用しない機器であるとみなされるおそれがあるため，21.101 で規定している静荷重試験又は落下試験に適合する機器には，スイッチ又は自動調節器を可とうコードの中間に接続して取付けることができることとした。

＜主な国際規格との差異の概要とその理由＞

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概　要	理　由
	対象となる国際規格は無し	

電気用品安全法の技術基準の解釈別表第十二に提案する規格の概要

＜主な改正点＞

箇条	主な改正点
1	電池駆動機器，その他の直流駆動機器についても，この規格の適用範囲に含めた。
1	この規格を規定しない状態を，以下の通りとした。 －　次のような人（子供を含む。）が監視又は指示のない状態で機器を安全に用いることができない場合。 ・　肉体的，知覚的又は知的能力の低下している人 ・　経験及び知識の欠如している人 －　子供が機器で遊ぶ場合。
3.103	絶縁形の導子部の説明を追加した。
3.104	通電形の導子部の説明を追加した。
21.2	家庭用電位治療器の出力端子からの漏えい電流が 13.2 に規定する値以下の絶縁形の導子部には，適用しない旨を追加した。
21.101	静荷重試験及び落下試験の内容を，電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈（20130605 商局第 3 号）の別表第八の附表第五（機械的強度試験）に準拠させるために，“おもり”への緩衝材の追加，及び落下試験の回数の規定を追加した。また，試験結果の判定を，具体的な試験内容から，通則で規定した判定に変更した。
22.103	家庭用電位治療器の構造では，通電形の導子部の出力電流制限用のインピーダンスは，複数の部品で構成しなければならない規定を追加し，出力制限用のインピーダンスに用いている部品のいずれか 1 個に短絡又は開放が生じても，13.2 に規定する値を超えてはならないとした。
24.2	21.101 の機器のタイプに応じた機械的強度試験に適合することにより，スイッチ又は自動調節器を可とうコードの中間に接続して取付けることができることとした。
30.2.3	通則の 30.2.3 では，人の注意が行き届かない状態で動作する機器に対して実施する，耐熱性及び耐火性の試験に関する内容が規定されているが，この規格の適用機器は家庭用医療機器であり，使用する対象が人であるため，動作時は常に人が注意して使用するため，30.2.3 は規定しない事とした。

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C9335-2-209:201x　　規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-209 部：家庭用電気治療器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 条 第 1 項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 4	箇条 4 一般要求事項（第 1 部の箇条 4 による。） 機器は，通常使用時に起こりやすい不注意があっても，人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	箇条 4 箇条 22 22.101	箇条 4 一般要求事項（第 1 部の箇条 4 による。） 機器は，通常使用時に起こりやすい不注意があっても，人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 22 による。） 家庭用低周波治療器の構造は，次による。 a)　最大出力電流は，通常動作で実効値 20 mA 以下でなければならない。 b)　電流を最小から最大まで連続的に増大する出力調整器を備えていなければならず，かつ，出力調整器が最小位置以外の状態で電源を入れたときは，出力しない構造でなければならない。 c)　1 増加量当たり 1 mA 以下又は 1 V 以下の不連続増加は，連続的な増加とみなす。 d)　出力電流の最小設定値は，1 mA 以下とする。 適否は，この規格の附属書 AA に規定する回路を用いて出力電流の測定によって判定する。	

				22.102 22.103 箇条 23 23.6 23.8 23.9 箇条 24 24.3 24.7 箇条 25 箇条 26 箇条 28	22.102　家庭用超短波治療器の構造では，定格出力電力は，50 W 以下でなければならない。 適否は，この規格の附属書 BB に規定する回路を用いて出力電力を測定し，判定する。 22.103　家庭用電位治療器の構造では，通電形の導子部の，出力電流制限用のインピーダンスは，複数の部品で構成しなければならない。出力制限用のインピーダンスに用いている部品のいずれか 1 個に短絡又は開放が生じても，13.2 に規定する値を超えてはならない。 箇条 23 内部配線（第 1 部の箇条 23 による。） 23.6　内部配線上のスリーブの固定方法。 23.8　アルミニウム電線の内部配線への使用禁止 23.9　より線のはんだ束ね禁止。 箇条 24 部品（第 1 部の箇条 24 による。） 24.3 全曲分離接点を持つスイッチ。 モータ動作電圧。 24.7 主給水管に接続するホースセット。 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード（第 1 部の箇条 25 による。） 箇条 26 外部導体用端子（第 1 部の箇条 26 による。） 箇条 28 ねじ及び接続（第 1 部の箇条 28 による。）	

第三条 第1項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条19 19.101 箇条22 22.46 24.8A	箇条19 異常運転（第1 部の箇条19 による。） 機器は，異常運転又は不注意運転によって，火災の危険，及び安全性又は感電に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を，できるだけ未然に防止できる構造でなければならない。 19.101　家庭用電位治療器は，出力端子の一端を，電源の一端に接続し，箇条 11.の温度上昇と同等の方法で試験する。判定基準は，JIS C 9335-1 の 19.13 によるほか，封止コンパウンドが流出してはならない。 箇条22 構造（第1 部の箇条22 による。） 22.46 故障／エラー状態を制御するための手段。 24.8A感熱線を使用した機器の感熱線。	
第三条 第2項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	■該当 □非該当	箇条7 7.101	箇条7 表示，及び取扱説明又は据付説明（第1 部の箇条7 による。） 7.101　家庭用超短波治療器の取扱説明書は，次の趣旨を記載しなければならない。 －　機器を使用する場合，血圧に異常のある人は，医師と相談する旨 －　定格出力電力が 10 W を超える家庭用超短波治療器は，次の趣旨の事項を記載する。 ・金属類（ネックレス，時計，金糸，銀糸，ラメ入り衣装など）は身に付けない旨 ・金属製物質（人工骨頭，埋没くぎ，金属製クリップなど）を体内に植え込んだ人には，使用しな	

					い旨 ・金属枠を用いた椅子及びベッドを使用してはならない等, 接地された導電部又は接地に対して同等の静電容量をもつ部分で, 高周波電流の予期しない伝導路を形成する可能性のある部分へ接触がないようにしなければならない旨 ・導子ケーブルは，導体及び超短波を吸収しやすい機器と接触しないように配置する旨 －　使用者に導子部及びケーブルの絶縁に損傷がないか定期的に点検させる注意書 箇条 23 内部配線（第 1 部の箇条 7 による。） 23.7 緑と黄色との配色で識別した電線。 箇条 24 （第 1 部の箇条 7 による。） 24.5　モータの補助巻線に用いるコンデンサ。 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード（第 1 部の箇条 25 による。） 25.10　クラス I 機器の電源コード。	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	■該当 □非該当	箇条 22 22.16 22.18 22.31 22.32 22.42	箇条 22 構造（第 1 部の箇条 7 による。） 22.16　自動式巻取り機構。 22.18　導電部その他の金属部の耐腐食性。 22.31　摩耗による沿面距離及び空間距離の減少。 22.32　摩耗による汚染物の堆積による，沿面距離及び空間距離の減少。 22.42　部品のインピーダンスの変化。	

				箇条 23 23.3 箇条 25 25.14 箇条 27 27.4 箇条 28 28.1 箇条 31	箇条 23 内部配線（第 1 部の箇条 7 による。） 23.3　内部配線の折り曲げ試験 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード（第 1 部の箇条 25 による。） 25.14　定置して用いないシースなしの平形コードの屈曲強度。 箇条 27 接地接続の手段（第 1 部の箇条 27 による。） 27.4　外部導体の接続を意図した接地端子の腐食。 箇条 28 ねじ及び接続（第 1 部の箇条 28 による。） 28.1　締付け部，電気接続部及び接地導通を行う接続部。 箇条 31 耐腐食性（第 1 部の箇条 31 による。）	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	箇条 1	箇条 1 適用範囲（第 1 部の箇条 1 による。） この規格では，住宅の中及び周囲で，機器に起因して全ての人が遭遇する共通的な危険性を可能な限り取り扱う。ただし，この規格では，通常，次のような状態については規定していない。 － 次のような人（子供を含む。）が監視又は指示のない状態で機器を安全に用いることができない場合 ・肉体的，知覚的又は知的能力の低下している人 ・経験及び知識の欠如している人	

					ー 子供が機器で遊ぶ場合	
				箇条 6	箇条 6 分類（第 1 部の箇条 6 による。）	
				6.1	6.1　機器は，感電に対する保護に関し，次のクラスのいずれかでなければならない。 クラス 0，クラス 0I，クラス I，クラス II，クラス III クラス 0 機器は，定格電圧が 150 V 以下の屋内用の機器についてだけ認める。	
				箇条 7	箇条 7 表示，及び取扱説明又は据付説明（第 1 部の箇条 7 による。）	
				7.12	7.12　安全に関する取扱説明書の備え 補助を必要とする人（子供を含む）が単独で機器を用いることを意図していない旨の記載。	
				7.12.1	7.12.1　機器設置における情報提供	
				7.13	7.13　取扱説明書等文書における公用語による記載	
				7.101	7.101　家庭用超短波治療器の取扱説明書は，次の趣旨を記載しなければならない。 ー　機器を使用する場合，血圧に異常のある人は，医師と相談する旨 ー　定格出力電力が 10 W を超える家庭用超短波治療器は，次の趣旨の事項を記載する。 ・　金属類（ネックレス，時計，金糸，銀糸，ラメ入り衣装など）は身に付けない旨 ・　金属製物質（人工骨頭，埋没くぎ，金属製ク	

					リップなど）を体内に植え込んだ人には，使用しない旨 ・　金属枠を使用いた椅子及びベッドを使用してはならない等，接地された導電部又は接地に対して同等の静電容量をもつ部分で，高周波電流の予期しない伝導路を形成する可能性のある部分へ接触がないようにしなければならない旨 ・　導子ケーブルは，導体及び超短波を吸収しやすい機器と接触しないように配置する旨 －　使用者に導子部及びケーブルの絶縁に損傷がないか定期的に点検させる注意書	
				箇条 15 15.1 15.3 箇条 22 22.44 29.2	箇条 15 耐湿性等（第 1 部の箇条 15 による。） 15.1　機器分類に従った水に対する保護等級。 15.3　通常使用時に生じる湿気への耐性 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 15 による。） 22.44　玩具のような形状及び装飾をもつ外郭。 29.2　材料グループ及び汚損度を考慮した沿面距離。	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11 11.7 箇条 21 21.101	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 11.7　機器は 30 分間連続運転する。ただし，30 分未満の短時間定格のものは，その表示された定格時間に等しい時間とする。 箇条 21 機械的強度（第 1 部の箇条 21 による。） 21.101　機器のタイプに応じた試験は，次による。	

					ー　床上で使用することを意図する機器　a)の試験 ー　機器の質量が 4 kg 以下の可搬形機器　b)の試験 a)　静荷重試験　試験品を厚さ 10 mm 以上の表面が平らな木台の上に通常動作状態に置き，底面の形状が正方形で，その一辺の長さが 100 mm，質量が 60 kg のおもりを上部に 1 分間置く。 試験後，機器には損傷が生じてはならない。 適否は，目視検査によって判定する。機器に損傷のおそれがある場合，8.1，15.1，及び箇条 29 の全て又はその一部によって判定する。疑義を生じた場合，付加絶縁又は強化絶縁について，16.3 に規定する耐電圧試験を行う。 注記　大きさが 100 mm×100 mm×30 mm の砂を入れた袋を，試験品と“おもり”との間に置き，緩衝材として用いてもよい。 b)　落下試験　コンクリートの床上に置いた厚さが 30 mm の表面が平らなラワン板の中央部に，機器の底面がラワン板の面に平行になるようにし，機器を高さ 70 cm から 1 回落下させる。 試験後，機器には損傷が生じてはならない。 適否は，目視検査によって判定する。機器に損傷のおそれがある場合，8.1，15.1，及び箇条 29 の全て又はその一部によって判定する。疑義を生じ	

					た場合，付加絶縁又は強化絶縁について，16.3 に規定する耐電圧試験を行う。	
				箇条 22	箇条 22 構造（第 1 部の箇条 15 による。）	
				22.21	22.21　含浸を施さない繊維性又は吸湿性がある材料。	
				箇条 24	箇条 24 部品（第 1 部の箇条 24 による。）	
				箇条 29	箇条 29 空間距離，沿面距離及び固体絶縁（第 1 部の箇条 29 による。）	
				29.1	29.1　機器は，受ける可能性がある電気的ストレスに耐えるのに適した空間距離，沿面距離及び固体絶縁をもつ構造でなければならない。	
				30.1	30.1 耐熱性	
第七条第 1 号	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一　危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	■該当 □非該当	箇条 8	箇条 8 充電部への接近に対する保護（第 1 部の箇条 8 による。）	
				箇条 13	箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の箇条 13 による。）	
				13.3	13.3　運転中の耐電圧（第 1 部の 13.3 による。）	
				箇条 16	箇条 16 漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の箇条 16 による。）	
				16.3	16.3　耐湿後の耐電圧（第 1 部の 16.3 による。）	
				箇条 22	箇条 22 構造（第 1 部の箇条 22 による。）	
				22.5	22.5　コンデンサの残留電荷による感電危険の防止	
				22.103	22.103　家庭用電位治療器の構造では，通電形の導子部の，出力電流制限用のインピーダンスは，	

				箇条 23 箇条 27	複数の部品で構成しなければならない。出力制限用のインピーダンスに用いている部品のいずれか 1 個に短絡又は開放が生じても，JIS C9335-2-209 の 13.2 に規定する値を超えてはならない。 箇条 23 内部配線（第 1 部の箇条 23 による。） 箇条 27 接地接続の手段（第 1 部の箇条 27 による。）	
第七条第 2 号	感電に対する保護	二　接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	■該当 □非該当	箇条 13 13.2 箇条 16 16.1 16.2 箇条 22 22.101	箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の箇条 13 による。） 13.2　動作温度での漏えい電流 家庭用電位治療器の導子部からの漏えい電流の値は，1 mA 以下とする。 箇条 16 漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の箇条 13 による。） 16.1　機器の漏えい電流は過大であってはならず，かつ，その耐電圧強度は適切でなければならない。 16.2　耐湿後の漏えい電流 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 22 による。） 22.101　家庭用低周波治療器の構造は，次による。 a)　最大出力電流は，通常動作で実効値 20 mA 以下でなければならない。 b)　電流を最小から最大まで連続的に増大する	

				箇条 27	出力調整器を備えていなければならず，かつ，出力調整器が最小位置以外の状態で電源を入れたときは，出力しない構造でなければならない。 d)　出力電流の最小設定値は，1 mA 以下とする。 箇条 27 設置接続の手段（第 1 部の箇条 27 による。）	
第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11 箇条 14 箇条 15 箇条 26 箇条 29	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 箇条 14 過渡過電圧（第 1 部の箇条 14 による。） 箇条 15 耐湿性等（第 1 部の箇条 15 による。） 箇条 26 外部導体用端子（第 1 部の箇条 26 による。） 箇条 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁（第 1 部の箇条 29 による。）	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11 箇条 17 箇条 19 箇条 30 30.2	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護（第 1 部の箇条 17 による。） 箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 箇条 30 耐熱性及び耐火性（第 1 部の箇条 30 による。） 30.2　耐火性	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。）	

第十一条第 1 項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 箇条 20 箇条 22 22.14	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 箇条 20 安定性及び機械的危険（第 1 部の箇条 20 による。） 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 22 による。） 22.14　機器の凹凸。	
第十一条第 2 項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 21 21.101	箇条 21 機械的強度（第 1 部の箇条 21 による。） 21.101　機器のタイプに応じた試験は，次による。 －　床上で使用することを意図する機器　a)の試験 －　機器の質量が 4 kg 以下の可搬形機器　b)の試験 a)　静荷重試験　試験品を厚さ 10 mm 以上の表面が平らな木台の上に通常動作状態に置き，底面の形状が正方形で，その一辺の長さが 100 mm，質量が 60 kg のおもりを上部に 1 分間置く。 試験後，機器には損傷が生じてはならない。 適否は，目視検査によって判定する。機器に損傷のおそれがある場合，8.1，15.1，及び箇条 29 の全て又はその一部によって判定する。疑義を生じた場合，付加絶縁又は強化絶縁について，16.3 に規定する耐電圧試験を行う。 注記　大きさが 100 mm×100 mm×30 mm の砂を入れた袋を，試験品と“おもり”との間に置き，緩衝材として用いてもよい。	

					b)　落下試験　コンクリートの床上に置いた厚さが 30 mm の表面が平らなラワン板の中央部に，機器の底面がラワン板の面に平行になるようにし，機器を高さ 70 cm から 1 回落下させる。 試験後，機器には損傷が生じてはならない。 適否は，目視検査によって判定する。機器に損傷のおそれがある場合，8.1，15.1，及び箇条 29 の全て又はその一部によって判定する。疑義を生じた場合，付加絶縁又は強化絶縁について，16.3 に規定する耐電圧試験を行う。	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 19.13 箇条 22 22.22 22.23 22.41 箇条 31 箇条 32	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 19.13　異常運転試験において、危険な量の有毒性のガスが機器から漏れてはならない。 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 19 による。） 22.22　機器は，アスベストを含んではならない。 22.23　機器には，ポリ塩化ビフェニル（PCB）を含んだ油を用いてはならない。 22.41　機器は，ランプを除き，水銀を含む部品を組み込んではならない。 箇条 31 耐腐食性（第 1 部の箇条 31 による。） 箇条 32 放射線，毒性その他これに類する危険性（第 1 部の箇条 32 による。）	
第十三条	電気用品から発せられる電磁波による危	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	■該当 □非該当	箇条 32	箇条 32 放射線，毒性その他これに類する危険性（第 1 部の箇条 32 による。）	

	害の防止					
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 箇条 22 22.49~22.51 箇条 30 30.2.3	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 箇条 22 構造（第 1 部の箇条 32 による。） 22.49～22.51 遠隔操作に対する規定 箇条 30 耐熱性及び耐火性（第 1 部の箇条 32 による。） 30.2.3　人の注意が行き届かない機器の耐火性試験	
第十五条第 1 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条 19	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 異常運転試験において、機器は，危険な誤動作を起こしてはならない	
第十五条第 2 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条 19	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 異常運転試験において、機器は，危険な誤動作を起こしてはならない。	
第十五条第 3 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	□該当 ■非該当	－	－	急停止が危険にならない機器
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	■該当 □非該当	箇条 10 箇条 17 箇条 19 箇条 25	箇条 10 入力及び電流（第 1 部の箇条 10 による。） 箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護（第 1 部の箇条 17 による。） 箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード（第 1 部の箇条 25 による。）	

第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電気的、磁気的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 19.11.4	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 19.11.4　保護電子回路を組み込んでいる機器は，イミュニティ試験を実施する。	
第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	■該当 □非該当	－	－	家電機器に対する雑音の強さは，J55014 等の別規格に従う。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 7 7.14	箇条 7 表示，及び取扱説明又は据付説明（第 1 部の箇条 7 による。） 7.14　表示は，容易に判読でき，かつ，耐久性があること。	
第二十条第 1 号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一　扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ)　製造年 (ロ)　設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ)　設計上の標準使用期間を超えて使用する	□該当 ■非該当	－	－	長期使用製品安全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。

		と、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				
第二十条第2号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	二　電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ)　製造年 (ロ)　設計上の標準使用期間 (ハ)　設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	□該当 ■非該当	－	－	同上
第二十条第3号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三　電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ)　製造年 (ロ)　設計上の標準使用期間 (ハ)　設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	□該当 ■非該当	－	－	同上
第二十条第4号	表示（長期使用製品安全表示制度による表	四　テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない	□該当 ■非該当	－	－	同上

	示)	方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ)　製造年 (ロ)　設計上の標準使用期間 (ハ)　設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				